

町村週報

(町村の購読料は会費)
の中に含まれております

2611号

毎週月曜日発行

発行所 **全国町村会** 〒100 0014 東京都千代田区永田町1丁目11番35号：電話03 3581 0486 FAX03 3580 5955

発行人 山中昭栄：定価1部40円・年間1,500円(税、送料含む) 振替口座00110 8 47697

<http://www.zck.or.jp>

向日葵



もくじ

情報	町村 Navi	11
情報	新任都道府県町村会長の略歴	10
フォーラム	「農」のあるまちづくり 〜町民とともに癒しの景観を守る〜 埼玉県宮代町	6
活動	正副会長が安倍総理などを訪問 三大都市圏の人口が初めて全人口の過半数に 「住民基本台帳人口(2007年3月31日現在)」	3

写真募集

本誌表紙に掲載の写真を募集しています。
四季折々の風物や行事など適当な写真がありましたらご寄贈下さい。(写真には題名、町村名を付けて下さい)
なお、採否は当方に一任願います。
送り先:全国町村会・広報部

閑話休題 チューリップ

千葉市女性センター名誉館長
NHK番組キャスター

加賀美 幸子

チューリップの花をみていると、咲いた、咲いた、チューリップの花が、と口をついて出てくる。私達かつての少女達は、画用紙にお日様と家と女の子、そして何故か傍らには赤、白、黄色のくっきりとしたチューリップの花、という絵を、ある時期、何故か、みんなが同じように描いていたの思い出す。戦後すぐの時代のこと。聞けば、そのころチューリップの球根栽培が日本に於いて急激に増えたそうである。

最近、チューリップの町として有名な富山県砺波市を取材した。球根栽培農家の石田基三さんは94歳。凛とした風情で、ひたすら黙々と球根栽培に携わっている。その働く姿には、何かを見つめ続ける、揺ぎ無い姿勢が貫かれていて、惹き付けられた。眼鏡もかけず、新聞も読み、読書が趣味、達筆の細かい字で毎日欠かさず日記をつけている。昭和10年から19年までに召集四回、その間も書きつらなかり記し続けてきた手帳が手元に保管されてある。戦争について直接語れる人が少なくなっている。現在、参戦について何だったが、「語りたくない」と透き通るような眼差しで毅然とおっしゃる。戦いとは所詮勝ち負けのこと。勝っても負けても語りたくない。子供や孫にもあえて話してほしくない。そのかわり自ら綴った日記がある。読んでくれてもよい。忘れてもよい。でも遭ったことは残しておかなくては、という思いを語ってくださった。基三さんの軍事日記には、生業として大事にしてきたチューリップ栽培のことはあえて書かれていない。

チューリップの歌は戦前の作詞であり、「赤白黄色：どの花もそれぞれみんなきれいだ」という平和の歌でもある。「花の栽培などで戦争に勝てるか」という暗い時代であった。戦後、復員した基三さんは、その分、力の限りチューリップに命をかけた。砺波のチューリップは日本各地に平和の花を咲かせた。どの花みてもきれいだ。私たちの知らないところで、平和の心は重なり、伝わっていくものだ、改めて口ずさんでみた。

正副会長が安倍総理などを訪問

～ 町村が元気になる政策の実行求める ～



安倍内閣総理大臣(右)と懇談する全国町村会正副会長。
(安倍総理の左隣から)山本会長、寺島副会長、近藤副会長、五軒家副会長。

全国町村会の山本文男会長(福岡県添田町長)、寺島光一郎副会長(北海道乙部町長)、近藤徳光副会長(愛知県幸田町長)、五軒家憲次副会長(徳島県海陽町長)は、8月6日、就任の挨拶のため安倍晋三内閣総理大臣と菅義偉総務大臣を訪ね懇談した。

安倍総理大臣との懇談で、山本会長が「町村が先細るようでは我が国は勢いを失う、町村がもっと元気になるような政策を実行して欲しい。」と求めたのに対し、安倍総理は「地域に住んでいる人々が、良い方向に進んでいることを実感できるように対処したい。」と述べた。また寺島副会長は、美しい田園を残すことの重要性を、近藤副会長は、町村が夢を持てる社会の実現を、そして五軒家副会長は、町村合併を経験した今、生き残りを賭けて頑張っている現状を、それぞれ訴えた。



菅総務大臣(中央)と山本会長(右奥)、寺島副会長(右手前)、近藤副会長(左奥)、五軒家副会長(左手前)。

政 策

住民基本台帳人口 (2007年3月31日現在)

総務省

三大都市圏の人口が 初めて全人口の過半数に

総務省は8月2日、住民基本台帳に基づく人口、人口動態、世帯数(2007年3月31日現在)をまとめた。それによると、全国の人口は1億2,705万3,471人と前年より1,554人減少し、調査開始以来初めて減少に転じた昨年に引き続き2年連続で減少。自然増加数(出生者数・死亡者数)は昨年、調査開始以来初めてマイナス(6,748人)となったが、今回は出生者数の増加によりプラス(1万743人)に回復した。また、東京、名古屋、関西の三大都市圏の人口が現行調査方法を用いた92年以来初めて全人口の半数を上回った。このほか、町村部人口は1,343万1,043人で前年より45万6,967人減り、96年以降毎年減少。06年度における市制施行・合併により町村部から市部へ移動した人口数は37万8,148人だった。

●全人口が2年連続の減

全国の人口は1億2,705万3,471人で、前年より1,554人減少。初めて減少に転じた昨年に引き続き2年連続の減少となった。なお、男女別では、男が6,212万9,560人で構成

比は48・90%、女は6,492万3,911人で同51・10%だった。06年度は死亡者数が過去最高の108万1,174人となった一方、出生者数が過去最低を記録した05年度(106万5,533人)から2万6,384人増えて109万1,917人となった。この

結果、自然増加数は初めてマイナス(6,748人)となった昨年から再びプラスに転じ、1万743人となった。一方、社会増加数(転入者数・転出者数など)は1万2,297人だった。人口を都道府県別にみると、人口の多いのは東京(1,236万1,736人)、神奈川(874万1,025人)、大阪(866万5,105人)の順。なお、東京から福岡までの上位九団体が全人口の半分以上(52・12%)を占める。逆に人口が少ないのは鳥取(60万6,695人)、島根(73万9,080人)、高知(79万2,419人)の順。

都道府県別に人口増減の状況を見ると、人口が増加したのは10団体(東京、神奈川、愛知、千葉、埼玉、滋賀、沖縄、兵庫、福岡、大阪)で、前年より1団体増えた。増加数が最も多いのは東京(8万

8,360人)で、神奈川(4万7,652人)、愛知(3万9,029人)が続く。逆に人口が減少したのは37団体で、最も減少したのは北海道(2万9,265人)、青森(1万4,552人)、新潟(1万2,799人)が続く。

都道府県別に人口増加率をみると、最も高いのは東京(0・72%)で愛知(0・55%)、神奈川(0・55%)の順。逆に人口減少率が高いのは秋田(1・08%)で、青森(1・00%)、長崎(0・85%)が続く。

●自然増加は12団体

人口が自然増加となっているのは前年より1団体増え12団体(神奈川、愛知、埼玉、東京、大阪、千葉、沖縄、滋賀、兵庫、福岡、静岡、宮城)。増加数は神奈川(2万561人)が最も多く、愛知(1万7,898人)、埼玉(1万2,877人)の順。自然増加率は沖縄が0・53%で28年連続のトップ、愛知(0・25%)、神奈川(0・24%)が続く。

逆に自然減少となっているのは35団体で、北海道(8,451人)が最も減少数が多く、秋田(5,759人)、新潟(5,046人)の順。自然減少率が高いのは

政 策

は秋田(0.50%)で、高知(0.37%)、島根(0.33%)が続く。

一方、社会増加となっているのは9団体(東京、神奈川、愛知、千葉、埼玉、滋賀、兵庫、三重、福岡)で、前年より2団体増えた。増加数が最も多いのは東京(7万9,353人)で、神奈川(2万7,091人)、愛知(2万1,311人)が続く。社会増加率は東京(0.65%)が最も高く、神奈川(0.31%)、愛知(0.30%)の順。逆に社会減少は38団体で、北海道(2万8,144人)が減少数が最も多く、青森(1万5,179人)、長崎(1万1,333人)の順。社会減少率は青森(0.72%)が最も高く、長崎(0.68%)、秋田(0.59%)が続く。

●町村部人口が45万人減

全国の人口を市部と町村部に分けてみると、市部人口は1億1,362万2,428人で前年より45万5,413人(0.40%)増加した。町村部人口は1,343万1,043人で同45万6,967人(3.29%)の減少、96年以降毎年減少している。なお、06年度に市制施行及び合併により町村部から市部へ移動した人口は37万8,148人。また、町村部の

市部及び町村部の人口動態

区 分	市 部	町 村 部
平成18年3月31日現在人口 (A)	113,167,015人	13,888,010人
平成18年度に市制施行及び合併により町村部から支部へ移動した人口 (B)	378,148人	378,148人
自然増加数 (C)	47,157人	36,414人
自然増加率 (C) / (A)+(B)	0.04%	0.27%
社会増加数 (D)	30,108人	42,405人
社会増加率 (D) / (A)+(B)	0.03%	0.31%
増加人口 (B)+(C)+(D) = (F)	455,413人	456,967人
[(C)+(D) = (E)]	[77,265]	[78,819]
増加率 (F) / (A)	0.40%	3.29%
[(E) / (A)+(B)]	[0.07]	[0.58]
平成19年度3月31日現在人口 (A)+(F)	113,622,428人	13,431,043人

自然増加数は3万6,414人、自然増加率は0.27%、社会増加率は4万2,405人、社会増加率は0.31%だった。市町村別の人口をみると、仙台市の人口が100万人を超え、100万人を超えている市が全部で11市となった。また、人口2万人未満の市は12市。5万人超の町村は4町村で、愛知県三好町が5万3,956人、岩手県滝沢村が5

万2,798人、広島県府中町が5万1,207人、千葉県大網白里町が5万2,911人。このほか、人口500人未満の町村は6村で、東京都青ヶ島村が197人、東京都御蔵島村が270人、東京都利島村が294人など。三大都市圏の人口は6,353万9,362人で全人口の50.01%となり、調査開始以来初めて50%を超えた。一方、地方圏の人口

は6,351万4,109人で全人口の49.99%。人口を年齢階級別にみると、年少人口(0~14歳)は1,740万2,456人(構成比13.70%)、生産年齢人口(15~64歳)は8,297万5,838人(同65.31%)、老年人口(65歳+)は2,677万5,163人(同21.00%)。年少、生産年齢人口の割合は調査開始以来毎年減少し、老年人口の割合は毎年増加している。

人口の多い町村

順位	町 村 名	人口(人)
1	三好町 (愛知県)	53,956
2	滝沢村 (岩手県)	52,798
3	府中町 (広島県)	51,207
4	大網白里町(千葉県)	50,291
5	白岡町 (埼玉県)	49,047
6	那阿川町 (福岡県)	48,522
7	東浦町 (愛知県)	47,744
8	寒川町 (神奈川県)	47,322
9	杉戸町 (埼玉県)	47,049
10	阿見町 (茨城県)	46,696

人口の少ない町村

順位	町 村 名	人口(人)
1	青ヶ島 (東京都)	197
2	御蔵島村 (東京都)	270
3	利島村 (東京都)	294
4	栗島浦村 (新潟県)	370
5	三島村 (鹿児島県)	390
6	渡名喜村 (沖縄県)	474
7	大川村 (高知県)	502
8	北山村 (和歌山県)	510
9	北大東村 (沖縄県)	521
10	平谷村 (長野県)	558

全国の世帯数は5,171万3,048世帯で前年より61万1,043世帯、1.20%増加した。1世帯平均構成人員は2.46人(前年2.49人)で住民基本台帳制度の発足以来毎年減少している。都道府県別に1世帯の平均構成人員をみると、最も多いのは福井(3.07人)で、山形(3.05人)、富山(2.92人)の順。逆に最も少ないのは東京(2.04人)で、北海道(2.15人)、鹿児島(2.26人)が続いている。

政 策

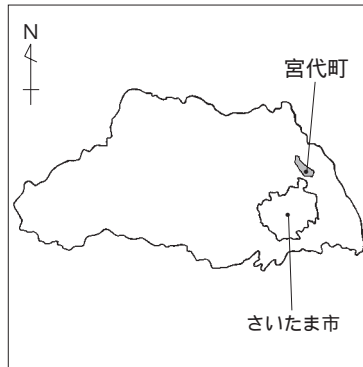
平成19年住民基本台帳に基づく人口及び世帯数

都道府 県 名	人 口		増 加 数			世 帯		
	平成19年3月31日 人 口 数 A	平成18年3月31日 人 口 数 B	増 加 数 A - B	増 加 率 $\frac{A - B}{B}$	前 年 増 加 率	平成19年3月31日 世 帯 数 C	1世帯平均 構 成 人 員 A/C	前 年 1世帯平均 構 成 人 員
	人	人	人	%	%	世帯	人	人
北海道	5,600,705	5,629,970	29,265	0.52	0.41	2,599,764	2.15	2.18
青森	1,445,592	1,460,144	14,552	1.00	0.85	562,919	2.57	2.61
岩手	1,377,666	1,388,164	10,498	0.76	0.64	497,023	2.77	2.81
宮城	2,340,485	2,344,569	4,084	0.17	0.31	883,414	2.65	2.68
秋田	1,143,829	1,156,356	12,527	1.08	0.88	415,863	2.75	2.78
山形	1,204,099	1,212,163	8,064	0.67	0.71	394,212	3.05	3.09
福島	2,089,439	2,100,851	11,412	0.54	0.45	736,288	2.84	2.88
茨城	2,986,115	2,988,533	2,418	0.08	0.14	1,079,882	2.77	2.80
栃木	2,006,363	2,009,498	3,135	0.16	0.06	730,557	2.75	2.78
群馬	2,016,236	2,020,037	3,801	0.19	0.12	745,233	2.71	2.74
埼玉	7,042,044	7,019,919	22,125	0.32	0.24	2,781,143	2.53	2.56
千葉	6,058,248	6,035,658	22,590	0.37	0.20	2,454,027	2.47	2.50
東京	12,361,736	12,273,376	88,360	0.72	0.74	6,060,432	2.04	2.06
神奈川	8,741,025	8,693,373	47,652	0.55	0.47	3,774,373	2.32	2.34
新潟	2,425,683	2,438,482	12,799	0.52	0.47	831,390	2.92	2.96
富山	1,110,713	1,114,714	4,001	0.36	0.27	379,768	2.92	2.96
石川	1,169,249	1,171,106	1,857	0.16	0.23	431,925	2.71	2.74
福井	818,443	821,073	2,630	0.32	0.31	266,948	3.07	3.10
山梨	875,621	879,239	3,618	0.41	0.31	328,309	2.67	2.70
長野	2,184,596	2,190,874	6,278	0.29	0.27	798,841	2.73	2.77
岐阜	2,100,413	2,105,011	4,598	0.22	0.19	724,887	2.90	2.93
静岡	3,775,367	3,775,903	536	0.01	0.02	1,397,457	2.70	2.73
愛知	7,145,614	7,106,585	39,029	0.55	0.49	2,774,999	2.57	2.61
三重	1,857,090	1,857,456	366	0.02	0.13	701,695	2.65	2.69
滋賀	1,371,577	1,365,393	6,184	0.45	0.36	487,389	2.81	2.86
京都	2,562,282	2,566,420	4,138	0.16	0.06	1,085,362	2.36	2.39
大阪	8,665,105	8,663,719	1,386	0.02	0.05	3,779,054	2.29	2.32
兵庫	5,580,497	5,576,784	3,713	0.07	0.01	2,267,661	2.46	2.49
奈良	1,425,308	1,430,366	5,058	0.35	0.37	540,542	2.64	2.67
和歌山	1,053,896	1,061,559	7,663	0.72	0.64	420,679	2.51	2.54
鳥取	606,695	610,434	3,739	0.61	0.52	222,832	2.72	2.76
島根	739,080	744,677	5,597	0.75	0.67	272,241	2.71	2.75
岡山	1,951,420	1,954,919	3,499	0.18	0.16	758,762	2.57	2.61
広島	2,867,423	2,870,907	3,484	0.12	0.06	1,198,083	2.39	2.42
山口	1,489,176	1,499,002	9,826	0.66	0.52	633,395	2.35	2.38
徳島	811,678	816,321	4,643	0.57	0.51	314,289	2.58	2.62
香川	1,023,074	1,026,088	3,014	0.29	0.28	401,497	2.55	2.58
愛媛	1,479,775	1,486,946	7,171	0.48	0.48	618,521	2.39	2.42
高知	792,419	799,121	6,702	0.84	0.81	346,228	2.29	2.32
福岡	5,030,311	5,028,026	2,285	0.05	0.10	2,104,652	2.39	2.42
佐賀	868,562	872,302	3,740	0.43	0.38	302,591	2.87	2.91
長崎	1,482,146	1,494,879	12,733	0.85	0.75	601,788	2.46	2.49
熊本	1,852,073	1,858,522	6,449	0.35	0.22	712,952	2.60	2.63
大分	1,218,066	1,221,714	3,648	0.30	0.30	495,120	2.46	2.49
宮崎	1,167,509	1,172,402	4,893	0.42	0.32	489,832	2.38	2.41
鹿児島	1,751,510	1,759,650	8,140	0.46	0.67	775,541	2.26	2.28
沖縄	1,387,518	1,381,820	5,698	0.41	0.44	532,688	2.60	2.64
合 計	127,053,471	127,055,025	1,554	0.00	0.00	51,713,048	2.46	2.49

現
地
レ
ポ
ー
ト

地域資源を活かした活性化策

「農」のあるまちづくり ～町民とともに癒しの景観を守る～



宮代町の概要

東京から東武伊勢崎線に乗り、車窓から外を眺めていると、次第に都会から連続していたビルや密集した住宅の風景がまばらになり、やがて一面に豊かな田園風景が広がります。これらの光景は、姫宮駅を過ぎると間もなく見ることができ、いわば、都市部に近い田園風景の町が私たちの町「みやしろ」です。

宮代町は、関東平野のほぼ中央部にあり埼玉県の东北部に位置し

ます。東西2km、南北8kmと北西から南東にかけて細長い形をしており、わずか15・95平方キロメートルの小さな町です。東武鉄道が町を縦断しているという好条件のもと、農村から都心への通勤圏の町へと変わり、いわばベッドタウンとして昭和40年代以降人口が急増し、現在の人口は約3万4千人を数えます。

宮代町は、昭和30年に須賀村と百間村が合併してできた町です。町の名は、百間村の総鎮守姫宮神社の「宮」と、須賀村の総鎮守である身代神社の「代」をそれぞれとって宮代(みやしろ)町が誕生しました。農地と住宅地が共存するこの町は、稲穂を揺らす風を肌で感じるこのことできる、都市と田舎の交差点にあたる小さな町です。

そもそも始まり

「農」のあるまちづくりは、平成4年度に実施されました町職員に



みやしろまち
埼玉県 宮代町

ほっつけ水田での田植え

フォーラム

よる政策研究セミナーの成果として提案され、実現したものです。首都圏40キロにありながら、田園風景と大宮台地の成す雑木林が広がる景観、農業用水を中心とした水の流れ、農家の屋敷林等が開発されずに残っていました。それらの景観が心を癒す地域資源であったにもかかわらず、都市化の波に流される危機に直面してきたことがきっかけになっています。

当時の住民意識調査で、この地に住みつづけたいと応えた方々が実に83%にも上り、その大きな理由として自然環境の良さが上げられていました。しかし、宮代町は関東平野の真っ只中、当然ながら海も山もありません。宮代にとつての自然環境とは、田んぼや畑、農業用水や屋敷林が織り成す水と緑であり、「農」の風景そのものだったのです。

ここで一番のポイントとなることと、それは、誰もが素晴らしくと考えるこの「農」の風景を誰が維持してきたのか？そしてこれからも維持されていくのか？ということでした。

町民のそのほとんどがサラリーマン世帯です。つまり、人口比でわずか6%の農家の方々が営み、この風景を支えていたという事実です。高齢化社会の人口にあって年々厳しい環境になってきたこと

を町民全体の共通認識にしたところからが始まりでした。

みやしろマーケット委員会と「農」まち委員会

宮代の畑で何ができるの...？ できたお米はどこへ行くの...？ 巨峰が特産物ってなっているけど、町民はなぜ食べられないの...？ 私たちが農地を守る...？ 農地が環境に良いのはなぜ...？ と様々な疑問と目の前に広がる農地ではあっても、何もできないジレンマとの戦いのような委員会が二つ誕生しました。そのひとつが町民参加の宮代マーケット委員会、もうひとつが職員のプロジェクト「農」のあるまちづくり委員会です。

やれることからやって見よう！を合言葉に、様々なアイデアと理想をぶつけ合い、「農」をテーマとした町づくりの可能性、環境、福祉、教育、経済とあらゆる角度から研究が始まりました。まもなく、喧喧譁譁、凹凸の会議から15年を迎えようとしています。宮代町のまちづくりの理念として「農」のあるまちづくりが定着し、先人から継承されてきた田畑や屋敷林、雑木林などの「農」の風景やそれにかかわる知恵や営みを、宮代町の個性、資源として捉え、

これを維持修復するとともに、あらゆるまちづくりに生かしていくこととする考え方になり得るとは誰しも考えていなかったことでしょう。

足元から見つめてみよう！

まず、始めに取り掛かったことが、宮代版農業白書の作成でした。農業経営、土地利用の現状と後継者や農業機械の更新等農家の意識調査です。その結果は、非常に厳しく、高齢化と後継者不足に歯止めはかけられない状態でした。農地が危ない...と危機意識を

新たにした瞬間でした。気がつくると水路もヘドロ化し、めだかやタニシが減少しアメリカザリガニの天下です。世間では、輸入野菜がはびこり食糧需給率は数%と悲しい現実...かといって、農業を手伝うわけにも行かず、どうしようという願いを込めてシンポジウムを開催しました。

そこで出された提案は、農家が元気になるために町民が宮代産のものをたくさん食べようということでした。シンポジウムより先に始められた夕市をベースに、農家と消費者の接点を近くし、ゆくゆくは商店や学校給食へも提供していく...というものです。秋には、巨峰市を開催して初めて町民が宮代産の巨峰の味覚を楽しみ、春には桜市を開催して野菜や手作り加工品のPRを図っていきました。

マーケット委員会では、特産品の開発にも着手し、減農薬無化学肥料のPB米「みやしろっ子」をはじめとして、メイドイン宮代商品の開発基準を作成して町内の商工業者の協力を経て、宮代産の農産物や巨峰を使った商品開発が始まりました。

次のステップは、農産物直売所建設への展開。役場の近くに、アンテナショップを建



巨峰市 長蛇の列

フォーラム

設して、農家は商品（売れる農産物、消費者ニーズ、梱包）作りを勉強し、消費者は味や形の安定しない農産物を食べて良い野菜作りの応援を始めていきました。生産者の顔が見える、朝取り野菜はたちまち人気者になり、ふぞろいの野菜たちの美味しさを覚えたはじめての一步だったのです。

地域活性化のポイント

「農」のあるまちづくりは、現在町づくりの理念として浸透し、その象徴、縮図として「新しい村」が整備されました。「新しい村」の整備にあたっては、さまざまな市民参加によって検討され、シンポ

ジウムの開催や夕市、巨峰市などのイベントをとおして、農家、非農家の方々の融合、意識向上を図ってきました。

「新しい村」を拠点として、「農」のあるまちづくりを町民相互理解、町民参画のもとに推進していくため、地域内自給を目指した農産物直売所 加工体験等の食育ふれあい 土に親しみ農作物を育てることとで農業を身近なものとして理解する都市と農村の交流 農業機械化施設を充実させて生産活動の支援を目的とした複合施設を建設していくことになりました。

産業祭



平成13年9月に完成した新しい村は、東武伊勢崎線東武動物公園駅からわずか1kmと中心市街地から近い場所にもかかわらず、町の原風景である水と土と緑の宝庫です。およそ13haのエリア内には、さいたま緑のトラスト第5号保全地に指定された山崎山の雑木林や、開墾当時の掘上げ田（ほっつけ）が残り、カワセミが飛来する貴重な自然環境が残っています。これらの昔からある自然豊かな里山の風景を、町の財産として維持していこうという「農」のあるまちづくりの理念のもと、農村風景

ハーブ園



市民農園



や水辺等に配慮した農の息づく快適で自然豊かな空間として、農産物直売所、農産物加工施設、市民農園、ハーブ園、歴史的水田（ほっつけ）、農の家、育苗施設、農業機械化施設などを整備しました。新しい村の管理運営は、町を始めた町民や企業が出資して設立した（新）新しい村が指定管理者として受託し、農産物直売所の経営、体験学習事業の企画・運営、農作業受託等の農業支援など幅広く事業を展開しています。職員の多くは町内在住者が従事し、町民主体的な経営が行われています。

また、13haに及ぶ新しい村の管理には多くの町民ボランティアが参画し、市民農園利用者や結の里いきいき塾、市民農業大学OB会、NPO法人水と緑のネットワーク、竹のアート実行委員会など、新しい村を拠点に様々な活動を展開しています。こうした町民ボランティアの参画を得て、農の息づく風景を保全し、心の潤いのある環境と共生するライフスタイルを「宮代らしさ」として創造する「農」のあるまちづくりが進められています。

これからの展開

町内に「新しい村」という種がまかれてから6年がたち、農地の

フォーラム

活用や様々な人の交流、新しい仕事へと発芽した試みは着実に育み実らせています。これからは、(有)新しい村の組織を充実させ、新しい村の目的である3つのテーマ「地域内自給」「食育」「農業支援」を確かなものとしていくその過程で、できるだけ多くの交流人口を目指して町民相互の新しい村となるよう、また、町づくり会社として自立していけるような経営を目指していきます。

地域内自給

農産物直売所「森の市場結」(Y



森の市場結

UI)では、利用する生産者組織を立ち上げて、品質の向上に努め、生産品目の増加、生産時期の調整を図り、年間をとおして充実した市場の経営を目指しています。生産者同士の研究や競争が良い結果を生んでいます。そこへ到達するまでは、生産品目のだぶり、売れ残りが生産意欲を低下させるなど紆余曲折がありました。今では、職員も野菜ソムリエの資格を持ち生産者ももちろん消費者との間に立つて野菜づくりと美味しい食べ方のアドバイスに努めています。

メイドイン宮代商品にこだわって、商品アイテムが少ない時期でも我慢の経営を続けてきたことが、生産者の見える安心安全の農産物ということが消費者に認められました。同時に、生産者の工夫の効果も現れ、充実した市場に生まれ変わってきています。

食育

市民農園「結の里」を管理する農の家では、農・食をテーマとした講座を企画することで、食べることから、収穫体験、作業体験へと人々の行動が発展し、農に対する応援者が増えてきています。市民農園の利用者、体験学習の参加者などのネットワークができ、充実した余暇を楽しむ交流がなされています。特に、歴史的な水田を復元

ほつつけ水田



させた「ほつつけ水田」では、町内小学校の農業体験の場にもなっていますので、食育をとおして環境を教えることができます。さらに、町内から近隣市町へ、さらには首都圏へとPRを広げ、農村風景を楽しんでもらうと同時に食育、新鮮素材にふれていただき、大地の大切さを知ってもらうための事業展開にチャレンジしています。

今年度は、文京区立誠之(せいし)小学校や千代田区立番町小学校から体験農業に参加いただき、地元小学校との交流が始まっています。

農業支援

農業サービス部門では、農作業

の受託、遊休農地の受託、稲野菜苗の育苗販売をとおして、農作業の軽減化を図るとともに宮代の農業を担っています。会社員としての若者の就農、新規就農者の育成等明るい兆しが見えてきました。

農業サービス事業として遊休農地を活用した農産物の栽培を行い、「村育ち」とネーミングして森の市場結や近隣のスーパーでの販売を行っています。すでに、約15ヘクタールもの田畑の作業受託が始まっています。それにあわせて、米の生産も育苗から乾燥調整まで一貫した管理体制の元で生産できるようになり、「村育ち」の生産販売の拡充を図るとともに、ますますお客様のニーズに合わせた安心安全の農産物の提供に弾みがかかりました。

学校給食の地域内農産物の供給についても、新しい村のオープン前は、町特産物の巨峰だけでしたが、現在は農産物全体の約3割にまで上っています。町内の子どもたちに、今後も顔の見える安心で美味しい農産物の提供をしていくために、生産者組織と力を合わせて新しい村農業サービスもプロの農業集団としてより一層の供給率拡大を目指しています。

(産業政策室長 新井康之)

NaviNaviNaviNavi 町村 NaviNaviNaviNavi

鳥吹 助成金
 若者夫婦の家づくりに

町は町内に家を建てる40歳以下の若い夫婦に助成金を交付する、若者定住促進事業」を始めた。若者の定住を促進し、活気あふれるまちづくりを実現するのが目的。事業期間は、2007年度から10年度までで、町は今年度予算に300万円を計上した。

新たに宅地を購入して家を新築した夫婦に対して、床面積に応じて、「120㎡未満」が年7万5千円、「121～150㎡未満」が同10万円、「151～180㎡未満」が同12万5千円、「180㎡以上」が同15万円を助成する。新築のみや、宅地と中古住宅を購入した場合、それぞれ2万5千円減額して助成する。

床面積50㎡以上の一戸建てが対象で、玄関や台所、浴室などが提示した条件を全て満たす必要がある。

助成を受けるには、4月1日以降に家を建てた夫婦で町に10年以上定住する意思があるほか、申請時の平均年齢が40歳以下、夫婦どちらかが就職している、町税等を滞納していないことを満たす必要がある。助成の期間は、町内に1年以上住んでいる夫婦は3年間、町外から転入して1年以内は5年間とした。

玉山 災害弱者に火災警報器を無償貸与

町は65歳以上の高齢者や障害

者など「災害弱者」のいる世帯に対して住宅用火災警報器を無償貸与する。併せて災害弱者の実態を把握するため、町の区長会(35行政区区長で構成)が中心となり「防災カード」を作成する。

町は、消防法改正による既存住宅の火災警報器設置を2008年6月から義務付ける。政策経営課によると、無償貸与するのは寝室用の火災警報器で、今年度予算に1千万円を計上した。約7千の総世帯のうち、約2千世帯に火災警報器が設置できるという。

一方、区長会が作成する「防災カード」には、家族構成や要援護者の有無・状況、緊急時の連絡先などを記入してもらう。同カードは区長会が保管し、町や民生委員に情報提供する。災害時には自衛隊や警察、消防などにも提供する。

火災警報器の無償貸与は町制施行40周年記念事業として行うもので、防災カードは区長会側が町に提案した。

長野町 町の「お宝100選」を選定

町は、後世に伝えていかなければならない町内の観光資源などを町民等から募り、「小海のお宝100選」として冊子にまとめた。町外への人口流出が問題となる中、町民に町の良さを再確認してもらおうのが目的で、定住促進や交流人口の増加につなげていきたい考え。「100選」編纂は、まちおこ

しグループ「こつみ塾」が中心となって行った。町の歴史や文化、風習など「身近にあり、町民の意識から失われては困るもの」を条件に、町内外問わず募集。254件の応募の中から、町や観光協会などで組織する選考委員会が「100選」を選んだ。

「100選」では、松原湖などの観光名所だけでなく、文化や風習、祭りなども選ばれた。それぞれ解説と写真、案内図を掲載している。冊子はカラー刷り116ページで約2000部を作成した。費用は総額116万円。町内で無料配布しているほか、遠方の人には郵送している。

総務課によると冊子は住民に大好評で残り少なくなっているという。

根郷町 自由な間取りがOK、鳥美 若者定住住宅を建設へ

町は、入居者が間取りを自由に設計できる若い夫婦向けの町営住宅5戸を建設する。若者の定住を促進し、人口減少を食い止めるのが目的。8月末まで入居者を募集し、秋ごろから建設を始める。企画課によると現在3世帯から応募があったという。

入居できるのは小学生以下の子どもがいる原則40歳までの夫婦(母子手帳所持者を含む)で、20年以上町に住むことが条件。住宅は都賀本郷地域の「山手ニュータウン」(約2、900㎡)に5戸用意し、それぞれ宅

地面積400㎡以上、床面積95㎡100㎡の木造平屋建て。入居後3年以上経てば、適当と認められた場合に増築できる。家賃は月額3万円。

同課によると、入居者が自由に間取りを決められる公営住宅の建設は県内では初めてという。町は来年度も別府地域に若者向け住宅5戸を整備する方針だ。

川町 町独自の商品券を発行

町は8月から町独自の商品券の発行を始めた。町内の店などで利用できるもので、商品券にはバーコードの数十倍から数百倍の情報量を扱う事ができる「QRコード」を配置するなどの偽造防止策を講じた。

商品券の発行は、町内の消費拡大や経済の活性化、地域の振興を図ることが目的で、町では、「引き出物やお中元、お歳暮などさまざまな贈り物として使ってほしい」と積極的な利用を呼び掛けている。

商品券は500円と1、000円の2種類で、町の商工会で町内外問わず誰でも購入できる。使用期限は発行日から1年間で、飲食店やコンビニ、タクシー会社など町内252の「指定店」(8月10日現在)で利用できる。

公共料金や医療機関での支払い、他の商品券等の購入はできない。

情 報

新任都道府県町村会長の略歴

石川県町長会は平成19年6月13日の定期総会で次のとおり会長を選出した。(6月14日就任)

石川県町長会会長
河北郡津幡町長

村 隆一
むら りゅういち

昭和15年4月5日生



【住所】石川県河北郡津幡町字清水143番地
【町長に当選するまでの経歴】昭和35年(株)加賀屋 平成14年津幡町長
【町長としての当選回数】2回
【町村会関係の経歴】平成17年石川県町長会監事
【主な業績】文化会館(シゲナス)建設、国道8号津幡北バイパス整備促進 第四次津幡町総合計画策定 出生祝金制度の創設 部制を柱とした役場組織の機構改革と職員意識改革 町内全域を光ファイバーケーブルなどによるケーブルテレビ網の整備で情報格差の是正
【趣味】ゴルフ、旅行、スポーツ観戦
【家族】妻

愛知県町村会は平成19年6月13日の理事会で次のとおり会長を選出した。(6月17日就任)

愛知県町村会長
額田郡幸田町長

近藤 徳光
こんどう とくみつ

昭和11年2月5日



【住所】愛知県額田郡幸田町大字菰

字西野8番地
【町長に当選するまでの経歴】昭和34年幸田町職員 61年同町収入役 平成10年幸田町長
【町長としての当選回数】3回
【町村会関係の経歴】平成17年西三河町村会会長
【主な業績】「心がかよい夢と活力のあるまちづくり」を推進 JR新駅誘致と関連する区画整理事業等による都市基盤の整備促進 消防庁舎の建設、女性消防クラブの発足等消防・防災体制の強化 シルバー人材バンク等の開設による住民福祉の増進
【趣味】読書
【家族】妻

新刊紹介

「政界大変動」

篠原文也 著

定価11400円+税

46判上製 240頁

PHP研究所

TEL03 32339 6233

政界大変動 7・29「参院選の結果を受けて、このフリーズは今日まさにリアリティを帯びてきた。そんな書名の本が同選挙より1カ月ほど前に発刊されたことは驚きだが、趣旨は「政局予測」ではない。

日本経済新聞記者、テレビ東京解説委員として約35年間、永田町を

町村長のみなさまへ

(囲碁同好市長会参加のお誘い)

囲碁同好市長会(会長・四方八州男京都府綾部市長)では、このたび活動の幅を広げるため、囲碁に興味のある全国の町村長のみなさまを、会員としてお迎えしたいと考えております。

現在の活動は、1年に1回日本棋院(東京・千代田区)において大会を開催、プロ棋士との対局と指導を中心に会員同士の親睦と交流を深めています。限られた活動ではありますが、終局後のプロ棋士による懇切な指導・解説は大変好評です。

町村長のみなさまのご参加を心よりお待ちしております。

ウオッチしてきた著者は、現在の「自民vs民主体制」が歪な擬似二大政党体制であり、民主政治確立のためには政界再編「政界大変動」が不可欠であることを説き続けてきた。そんな著者の主張に、時代がようやく追いついてきたのではないかと。

小泉政権以後、自民党は「変わった」といわれるが、著者は「本質的な変化にはまだまだほど遠い」と手厳しい。なるほど有権者は今回の選挙で「自民党では日本は変わらない」という民意を示した。では民主党は政権政党たりうるかといえば、「アイデンティティがあいまい」で「国民の信頼が得られない」と著者は断じる。エピソードも満載の興味深い一冊。

お問い合わせは、囲碁同好市長会事務局まで
事務局担当：全国都市職員災害共済会 経理部主幹 国分俊一郎
電話03(3262)6585
mail: s-kokubu@tohsaikyo.or.jp





車両共済(保険)のご案内



(自動車総合保険の車両保険)

この車両共済(保険)は、町村生協の自動車共済で補償する対人賠償、対物賠償、限定搭乗者傷害等に加え「ご自身のおクルマの補償」を追加する制度です。
お車が衝突した場合や台風・いたずら・盗難など偶然な事故で損害を被ったときに、共済(保険)金をお支払いします。

町村生協の自動車共済にご加入の皆様なら

- 通常に新規でご加入するよりも**40%**(保険料)^{*}割引
(※町村生協の自動車共済で過去3年間無事故の場合。車両保険は9等級からスタートします。)
- 5%**割引



◎年齢・ご家族・ご夫婦など運転される方を限定する場合、またお車が新車の場合は、さらに掛金(保険料)が割引になります。

契約条件と掛金(保険料)例

車名	トヨタ エスティマ	補償範囲	免責金額なし	免責金額 5 万円
型式	ACR50W(車両クラス3)	オールリスクタイプ	57,770円	48,260円
初度登録	平成18年8月(新車割引あり)	(通常に新規で加入する場合)	96,280円	80,440円
年齢条件	30歳以上(家族限定)	エコノミー+A特約	28,180円	23,540円
共済(保険)金額	300万円	(通常に新規で加入する場合)	46,970円	39,240円
		A特約のみ	—	13,040円
		(通常に新規で加入する場合)	—	28,250円

- ・上記掛金(保険料)は、町村生協の自動車共済で過去3年間無事故(9等級)の場合のもので、保険料は平成18年8月1日現在のものであり、変更される場合もあります。
- ・掛金(保険料)は、型式、初度登録年月、年齢条件、運転者限定特約の有無、共済(保険)金額、等級などにより異なります。
- ・上記掛金(保険料)例の「通常に新規で加入する場合」とは6S等級を適用した保険料を例示したものです。
- ・免責金額とは、共済(保険)契約者に、自己負担していただく金額です。
- ・このご案内は概要を説明したものです。詳しい内容については取扱代理店(千里)または損保ジャパンの営業店にお問い合わせ下さい

※この車両共済(保険)をご契約いただける方は、全国町村職員生活協同組合の自動車共済に加入されている方に限ります。

お見積りのご請求・お申し込み・お問い合わせなどは、下記までご連絡ください。

株式会社 千里
(取扱代理店)

- フリーダイヤル **0120-731-087** (受付時間 月～金 午前9時30分～午後5時)
お電話の際には、車検証をお手元にご用意ください。
- FAX番号 **03-3519-7325**
- ホームページアドレス <http://www.chisato-ag.co.jp>
〒100-0014 東京都千代田区永田町1-11-32 全国町村会館西館内

●「車両共済(保険)制度」は、全国町村職員生活協同組合と株式会社損害保険ジャパンとが集団扱契約を締結し、実施しているものであります。

平成17年10月24日 SJ05-05230